

## 言葉のキャッチボール ～新学期に生徒の皆さんに望むこと～

大阪市立市岡東中学校長 西村 誠

### 【就職コンサルタントとの話】

最近の就職を目指す高校3年生や大学生と話しているとこの子たちは「言葉のキャッチボール」ができないのだと感じます。

キャッチボールをする時は、相手が受けやすいように投げるのがルールでしょう。プロ野球の選手が小さな子どもとキャッチボールをする時に剛速球は投げないものです。相手の技術に合わせて、受けやすいようにゆっくりと投げてあげるし、投げ返してきたボールが横にそれても懸命に走って受けてあげる。

しかし、最近の学生を見ていると相手がどんな人かも考えずにいきなり暴投を投げるように話したり、こちらから投げたボールを受けようとしなないかのように一方的にしゃべる、人が話しているのに話をさえぎり、自分の意見だけを言い続ける傾向があります。私たちは、これを「言葉のドッジ・ボール」と呼んでいるんですよ。相手にあてることに必死になっているような話し方です。

人付き合いのコツを表す「**大きな耳、小さな口、優しい目**」という言葉があります。

大きな耳というのは、「人の話をしっかりとまずは聞きなさい」ということです。

口は一つしかないのに耳が二つあるのは、話すよりその2倍、人の話を聞く必要があるから耳を二つにしてあるというのがイソップという童話を書いた人の意見です。

もう一つの小さな口というのは、「自分の意見を言い過ぎるな」ということです。

でも、もしも自分が話をしなければならなくなった時は…、

自分の心拍数より遅く話すと興味を持って聴いてもらえます。人は自分の心拍数よりも早く話されると頭に入らないと言います。(多くの人が経験の中で知恵として持っていますし、今は科学的にも証明されています。)

最後に優しい目というのは、「目配りをする」ということです。

今、話をしている相手はどんな気持ちで話しているのか、その話を聞いている横の人はどんな気持ちでそれを聞いているのかを読み取る(気づく)力のことです。その場の空気を読む(気配を感じる)ためには、自分の心は広く優しい状態でないとだめですよと言うのを「優しい目」という言葉で表しています。

人との出会いはすべてが奇跡です。大切に育んでください。今日から始まる新学期、次のことを心がけてください。

- ① 相手の話を最後まで聞こう。
- ② 自分の気持ちをしっかり伝えよう。
- ③ みんなで気づき協力しよう。

いつもポジティブに自分を励ます強い心を、他者を思いやる優しい心を、鍛え続けていける生徒であってほしいものです。